

「第1回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会」会議録

1 開催日時 平成30年2月9日（金）10時30分～12時30分

2 開催場所 金杉台小学校研修室

3 出席者

金杉台中学校 校長、学校評議員 2人、PTA 2人

金杉台小学校 校長、学校評議員 2人、PTA 1人

教育委員会 管理部長、管理部 教育総務課課長、学校教育部 学務課長

（事務局他） 金杉台中学校 教頭、教育総務課2人、学務課2人

4 会議録

※個人に関する情報等を考慮し、発言の一部について〔略〕と表記しています。

※学校評議員、PTAの発言を【出席者】としています。

※（ ）内は訂正又は主旨を踏まえ補足として教育総務課が加筆したものです。
会議録は以下のとおり。

【教育総務課長】

それでは、皆様お揃いになりましたので、第1回の「金杉台中学校の今後を考える会」を始めさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

最初に、教育委員会管理部長から御挨拶させていただきます。

【管理部長】

本日は、お忙しいなか、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
本日はよろしく願いいたします。

昨年の秋から皆様方から個別にお話を伺ってまいりましたけれども、詳しくは後程、教育総務課長からご説明申し上げますが、この度、関係者の皆様が一堂に会してお話しする機会を作らせていただきました。

中学校で1学年1学級というのは、船橋市内では金杉台中学校のみという状況で、教育委員会といたしましては、子供たちの教育環境の観点から、きちんと今後のことを考える時期に来ているのではないかと考えております。

子供たちにとってより良い教育環境をとるという思いは、ここにいらっしゃる皆様は職員を含めて同じ思いではないかと思っております。皆様方の学校に対する思いですとか、場合によっては、ご不満もあるかもしれませんが、子供たちにとって何が良いのか一緒に検討していただければと考えております。

ぜひ、子供たちのために忌憚のない活発なご意見をいただけますようお願いをいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

【教育総務課長】

本日の会議ですけれども、会議の概要版を作ろうと思いますので、録音させていただきますが、よろしいでしょうか。

《自己紹介省略》

【教育総務課長】

最初に資料についてですが、これまで個別にお話を伺っていたときに、市の全体的な計画を示したほうがよいという話がありましたので、文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」、そして「船橋市公共施設等総合管理計画」の概要版を用意いたしました。

内容は「第1回船橋市立金杉台中学校の今後を考える会 資料」にまとめておりますので、私から資料に基づいて説明させていただきます。「手引」と「基本方針」は後程、読んでいただければと思います。15分くらいになるかもしれません。

その後、もっとこういう説明が必要ではないかとか、もっとこういう検討をするべきではないかとか、いろいろ意見はあると思いますので、意見交換、議論していただいて、今後について考えていければと思っております。これがスタートですので、今後、皆様と協議していければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、1ページをご覧ください。

1.文部科学省の手引についてです。先ほどの冊子の抜粋です。文部科学省から平成27年1月に出されたものです。副題の「～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」にありますとおり、少子化に伴う、学校規模の小規模化への対応が求められています。

3行目をご覧ください。「学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要となります。そうした教育を十全に行うには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスの取れた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。」このようなことから、文部科学省では、法令で学校規模の標準を定め、手引を策定し、学校規模の適正化について、市町村に対し主体的な検討を促しています。

そして、学校規模の標準ですが、1つ目の点線の枠の中の下線の部分です。「法

令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに『12学級以上18学級以下』が標準」とされています。

詳しくは、後ほど見ていただくこととして、この場ではポイントを説明させていただきます。

2つ目の点線の枠の中に、「学級数が少ないことによる学校運営上の課題」が書かれております。

①クラス替えが全部又は一部の学年でできない。②クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。④クラブ活動の問題、⑥男女比の問題、⑧集団学習の実施に制約が生じる。などの課題が書かれております。これらについては、今までの話し合いのなかでも、出てきていたこともあったと思います。

次のページに、「教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題」が書かれております。

⑤教職員の負担が重くなる。⑩免許外指導の教科が生まれる可能性がある。⑪クラブ活動などの指導者確保が困難となるなどの課題があると、一般的にはいわれております。

そして次の枠には、「学校運営上の課題が児童生徒に与える影響」が書かれております。⑤切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。ですとか、⑦進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性があるなどの影響があるのではないかと書かれています。

そして、3つ目の点線の枠の中に「望ましい学級数の考え方」が書かれております。「小学校では、少なくとも1学年1学級であることが必要となります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには1学年2学級以上あることが望ましい。」とされています。

中学校については、「少なくとも1学年2学級が必要となります。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保することが望ましい。」とされています。

次に3ページをご覧ください。

小規模校を存続させる場合の教育の充実というところで、市町村の中には、一概にはいえませんが、近隣の学校間の距離が遠すぎるであるとか、様々な事情から学校統合によって適正化を進めることが困難であるとする地域や、小規模校のまま存続させることが必要であるとする地域も存在する旨、書かれております。

そして、こうした場合には、下線の部分ですが、教育の機会均等とその水準の維持向上という義務教育制度の本旨に鑑み、小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化する方策を計画的に講じる必要があるとされ、小規模校には3

ページ下の点線の枠内にあるようなメリットが存在すると書かれております。今までの話し合いのなかでも、小さい学校ならではのメリットの話は出ておりました。

次に4ページをご覧ください。

平成29年8月に一部改訂した、市の基本方針、「船橋市立小・中学校の学校規模・学校配置に関する基本方針」の抜粋を掲載しております。

まず、表1です。標準とする学校規模ですが、本市では、小学校・中学校共に12～24学級を標準とする学校規模と定めております。

表2は学校規模の分類です。過小規模校とは全学年に学級を作れない学校、小規模校は11学級以下の学校、標準規模校は12～24学級の学校、大規模校は25～30学級の学校、過大規模校は31学級以上の学校と分類しております。

次に5ページをご覧ください。

表3、学校規模に応じた基本方針です。過小規模校は現在、本市ではございません。

次に小規模校ですが、基本方針の最初のポツ（・）、今後、過小規模となることが継続的に見込まれる場合は、通学区域の変更・弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について検討を始めますとありますが、このような規模の学校は現在ございません。

2つ目のポツ（・）に、「単学級の学年（1学年1学級）が継続すると予想される場合や、複数の過小・小規模校が隣接している場合には、通学区域の変更、弾力化、統合等も視野に入れ、望ましい対応策について検討を始めます。」と定めております。金杉台中はここに該当しますので、今までお話を聞かせていただいて、検討を始めようとしてきたところです。

表4をご覧ください。今年度、平成29年度に市内で全学年1学級の学校は、高根小と金杉台中の2校です。6年先の平成35年度まで推計しますと、小学校では高根小、咲が丘小、豊富小の3校、中学校では金杉台中、豊富中、小室中の3校、計6校が1学年1学級になると推計されます。

このうち、まずは、小学校よりも多くの学級数が望ましいとされる中学校の中で、一番規模が小さい、金杉台中学校から、学校評議員の皆様や、保護者の皆様から現状をお聞きし、意見交換をしてきたところです。

次に、別紙の「船橋市公共施設等総合管理計画（概要版）」をご覧ください。

今説明いたしました、文部科学省策定の「手引」と、市の教育委員会策定の「基本方針」は、教育的な観点からのものでしたが、もう一つ市全体として策定した「船橋市公共施設等総合管理計画」があります。やはり、学校施設に関しては、この計画からも検討する必要があります。

詳しくは、後ほどご覧いただきたいと思いますが、簡単に説明いたしますと、

右上の「3.公共施設等の管理に関する基本的な方針」をご覧ください。灰色の枠にあります。市では「公共施設等の老朽化」の問題があります。昭和40年代からの急激な人口増加に伴い公共施設等の整備を集中的に進めてきました。今後一斉に建替えの時期を迎えることとなります。

次に、「将来の人口動態」の問題があります。真ん中の「人口動態」の部分をご覧ください。市全体でみると平成37年までは人口が増加し、その後減少に転じると見込まれます。どの地域でも高齢化は進行し、少子高齢化が進行する見込みです。あと、地域による差が大きく、南部・西部地域は今後も人口が増加傾向ですが、中部・東部・北部地域は減少傾向になる見込みです。

そして、もう一つとして「厳しい財政状況」の問題もあります。

これらの問題から、現在の公共施設等を全て将来にわたって維持し続けることは困難な状況です。そこで、「将来にわたり安全で安心できる快適なサービスを提供するために」ということで、「公共施設等の管理に関する基本方針」をこのように策定しております。

そのなかで「①公共施設等の最適な配置」についてだけ説明させていただきます。

地域により二極化する人口動態を踏まえて、新規に施設整備するもの、統廃合・転用するものなど、総合的に施設総量の最適化を推進します。

次に、将来の人口動態を踏まえて、人口が増加する時期、人口が減少する時期、人口減少が加速する時期ごとに、施設配置と施設総量の最適化を推進します。というような計画がございます。

資料に戻ってください。6ページから9ページは、今までご説明させていただきました、金杉台中の現状なので、ここでは説明を割愛させていただきます。

10ページをご覧ください。

今まで皆様方と意見交換したなかで、主な意見をまとめてみました。少人数の現状がいいという意見もありましたし、現状は課題があるという意見も多くありました。

本日、それぞれの関係者が一堂に集まったところで、改めて、感じているところなど、意見交換していただきたいと思います。集約しますと、金杉台中の保護者からは、少人数の良いところについての意見もありましたが、部活動の種類が少ないことなど、生徒数が少ないことのデメリットの意見もあがっていました。

今後中学校に進学する金杉台小の保護者からは、特に「金杉台中しか行けない地域の保護者」からは、「不公平である。自分たちも御滝中にも行けるようにしてほしい。小規模校の金杉台中に行きたいという人もいるとは思いますが、部活動や人間関係を考えて御滝中に行きたいと思っている。」という意見が出されてお

ました。

学校評議員の方々からは、「少人数教育がいい」という意見もありましたが、「地元の愛着はあるが、子供たちの立場で考えると統合もやむを得ない。」という意見もありました。

いろいろな意見が出ましたが、中学校の保護者の方々も学校評議員の方々も共通して、「自分たちよりも、これから中学校に上がってくる人たちの意見を大事にしたほうがいい。」という意見が出ておりました。

次に、このような意見も踏まえて、市で定めている基本方針に基づく対応策について、考えたところをご説明いたします。

まず、学区の変更についてです。11 ページをご覧ください。これまでも説明させていただいておりますが、再度説明させていただきます。

現在の紫色の金杉台中の学区に加えて、オレンジ色の部分、従来は御滝中の学区で金杉台中も選択できる地域ですが、これを金杉台中のみの学区とした場合の仮の学区変更案です。なお、この学区変更案は、小学校の通学区域や町会・自治会に対応していません。単に金杉台中と御滝中の通学距離のおおむね中間で区分したという、あくまで仮のものです。

その結果、どのような生徒数になるかといいますと、12 ページをご覧ください。表 13 です。オレンジ色の部分が学区変更の効果が出るところで、一時的には1 学年 2 学級になりますが、2 学級では望ましい学級数までには届きませんし、平成 41 年度には再び1 学年 1 学級に戻ってしまいますので、効果的な対応策にはならないと考えます。また、変更される地域の方々の理解を得ることも容易ではないとも思われます。

これは、金杉台中と御滝中の学区の中だけで考えたものです。馬込町のほうの旭中にも広げたらとどうなるかと作業しているのですが、まだ出来上がっていません。次回お示ししたいと思いますが、霊園が大きくあるのと、道路が真っ直ぐはないので、旭中との距離の関係で大きい効果は望めないとは思いますが、次回、数字でお示ししたいと考えています。

次に御滝中との統合について考えました。

11 ページに戻ってください。金杉台中の学区は、御滝中の学区の中にあるので、統合したとしても通学できる距離の範囲内と考えられます。

次に 13 ページをご覧ください。表 14 です。左上が金杉台中の推計、右上が御滝中の推計です。御滝中は、学級数は平成 35 年度まで増加し、その後減少していくと推計しております。そして、両校を合わせると下の推計となります。これを見ますと、一時大規模校にはなりますが、将来は生徒数が減少していきます。なお、ピーク時でも教室数は足りると推計しております。

14 ページをご覧ください。対応策の効果と課題をまとめたものです。

まず、1番目、現状の規模のままでは課題が多いと思われます。ここでは、「小規模校の課題が解消できない」とまとめて記載してありますが、この資料1~2ページに記載してありますとおり、多くの課題が解消できません。

次に2番目、学区変更につきましては、先ほどご説明しましたとおり、金杉台中の周りには子供が少ないので、学区変更では効果的な対応策にはならないと考えております。

そして3番目、御滝中との統合についてです。

地域の方々、保護者の方々から意見を聞いてきた結果、特に、今後中学校に進学する保護者からは、御滝中を望む声が聞かれました。

子供たちのためにどうすることが一番いいか。子供たちの教育環境を第一に考えて、児童生徒数の推計、御滝中の規模や教室数、通学距離などを考慮したところでは、

一昨日、2月7日に教育委員会会議があり、この件について報告をいたしました。

教育委員からは、正式な議事録は完成していませんが、「現状維持では問題が多い。議論するにあたっては、市の基本方針に沿っているかどうかが大事になる。そこで意見が分かれたとき、子供たちの教育環境を第一に考えること、特に、教育の機会均等、機会均等のなかには教育環境というものも大事になるので、この2つの観点から考えると統合が一番妥当ではないか」という意見もありました。

「長年、地域で支えてくださった方々や、保護者の意向を把握し、きちんと説明した上で、デメリット、メリットを明らかにして統合について議論を進めていくように。」

「何よりも子供たちのためにどうすることが一番良いかということで、統合について考えていく必要がある。」

「教育委員会の会議でも、この問題はこれからも継続して話し合っていきたい。」

というような意見が出ました。

まだまだ、ご説明する資料が足りないかもしれませんが、まずスタートとして、今後一緒に検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

説明は以上です。御質問や御意見をお願いします。

【出席者】

〔略〕全部読めないなので、よく目をとおして、第2回以降でいろいろと意見を述べさせていただきたいと思っております。

以前の中学校でお話をさせていただいた、質問になってしまうんですけども、

学務課にお尋ねしたいです。我が子は2人いて、〔略〕、金杉台小・中でお世話になって巣立っていきました。〔略〕もう20数年携わっていますけれども、中には、団地に住んでいて御滝中に進学したいと望む親御さんがかなりいらしたんですね。その頃から中学校の小規模化というのは進んでいて、なくなるんじゃないかって話はあったんですが、今、まだ立派に健在してますね。御滝中に自分の子供を行かせたいという親御さん。子供の意見は知らないです。理由は、あっちのほうが大きいから、部活が向こうにあるから。でも、人間関係はもまれないと将来不安だからということを経由に、子供は望まないけれども金杉台中学校にない部活を選んで御滝中になる。そういう理由で学区外に行くのであれば、3年間はその部活は続けなければいけないよという条件。これを約束すると割とすんなり行けたんですね。

で、進学した後の子供の話。一部ですけれども、部活で学校なんて選ぶもんじゃねえ。という子もいました。女の子でバトミントン部に行った子。体育館が部活で飽和状態になって取り合いなんです。毎日練習できない、外走りもある、つまらない。でも、3年間続けなければならない。その後の進路は聞いてませんが、それが実態です。

学務課の審査ですけれども、何か、もう少し、基準を厳しくしていただけたらな。ただ短絡的に人数が多い学校に行けば人間関係が強くなるという考え方は、ちょっと私は間違ってると思うんですね。小規模で、〔略〕。

だからといって、望んだ高校は、二人とも私立で大規模校だったんですけれども、やりたいことを持って行ってる場所なので、作る友人も気の合った友人、部活もしっかりやりましたし、特に、人間関係に困るとか、それで潰されるということは全くなかったんですね。

2人とも立派に社会人やっていますけれども、義務教育の間の、うまくいえないんですけど、教育体制、小規模校というのをうまく使って、ここ何年か小中連携推進、研究校として指定されていますね。金杉台小学校、中学校は、その延長線上として、小中一貫教育校に切り替えていくのもいいんじゃないかと。

9年教育もしくは、今の6・3制、戦後教育からの6・3制というのも古いと私個人では思っています。なぜかという、中学校の3年間で次の進路を決めるには、あまりに3年間は短すぎると思うんです。ですから、その前、少なくとも10歳くらいになって、おぼろげながらも、自分自身が将来こういうものになりたいと思うようになってからの教育、その子たちはなりたいものになれるような教育、その下積みを終わらせるのが義務教育じゃないかと思うんですね。なので、この、数字合わせについては失礼かもしれませんが、私は全面的に統廃合には反対で、小規模の良さを活かしながらここを存続させるという思いなんです。

すいません、一人でべらべら喋っちゃって。あとは、御滝中さんは、何ておっしゃってるのかな、と。仮にこれで大規模校になったとして、あちらの戸惑いはどうなのでしょう。急に大きすぎることになったことと、大事な3年間を子供たちがそういうものに振り回されてしまうわけですよね、たとえ一時だけでも、次の進路を考えなければいけない3年間で、金杉台中学校に行くはずが、一年生の子が来年からは御滝中学校に行くんだよと、その環境の変化の中で次の進路を決めるだけのゆとりが持てるかと、学習に専念できるか、ということもすごく心配です。

あとは、避難所としてです。避難所指定されてますけども、学校という毎日開いていて、若い先生達、児童生徒たちが毎日出入りしているからこそ、いざというときに避難所として役が果たせるんじゃないかと思うんです。そういう心配もありますし、そこらへんがよくよく話し合われているのかなということと、話し合いをしている教育委員の皆様がどういう方たちなのかなということも、ちょっと思います。すいません、まとまりませんが。

【学務課長】

選択に関しては、ちょっと質問の趣旨とずれてくるかもしれないんですけども、まず、どうしても自分の入りたい部活が（通学指定校に）なければ、部活動を理由に隣の学校、隣接した学校に、行ける、文科省から出ました学区の弾力的な運用ということで、その希望が強い者については、きちっと、今後のことも確認し、約束したうえで、学区っていうのも、簡単に、あ、そうですか、じゃあどうぞ、というふうにはなかなかできないので、本当にその理由で間違いありませんか、3年間やれる自信はありますかということを中心に確かめたうえで、では、ということで指定校変更を認めているということになります。

校長先生等の判断も状況も聞きながら判断してまして、学務課として、決して、大きい学校のほうがいいですよ、なんてことは一切言ってません。

距離の問題と部活動の問題については、この条件に限ってはどうしても指定された学校にそれが該当しなければという条件に合う方については、しっかり約束したうえで認めているということです。安易な形で学区変更を認めているとは、私ども捉えておりません。

6・3制という大きな話についてはこの場でこの立場でなかなか申し上げることはできないんですけども。

【教育総務課長】

御滝中については、こちらのほうで意見を聞いたりしている段階なので、まだ御滝中には行ってないんですね。今日ここで、方向性がどうなるかわからないん

ですけど、まずはみんなで考えようという体制ができたので、連休明けの13日、火曜日なんですけども、御滝中の学校評議員さんに金杉台中の現状というのをお話しして、そこから意見とか聞いていこうという段階なので、次回のときにそういうお話とかできるかと思います。

避難所については、14ページにも書いてあるんですけど、私たちが課題には思っておりますので、そういったところをどうするかというのは検討事項になると思います。

【学務課長】

部活動を理由に変更したということについては、ちゃんと在学してからも、入学してからもちゃんと継続されてるかどうかということは確認して、やはり、それだけ学区を変更するということは重要なことであるということについては、追っての調査もしながら、それが却って、その子たちのしぼりになっているかもしれないんですが、それだけ学区を変更するということは大変なことなんですよという意識は示しているつもりなんですけども。

【出席者】

学務課の立場はそうだと思います。あと一ついいですか。今、県道沿いに、町会でいえば、隣の金杉町会さんだと思うんですけども、70軒ほど家が新築されます。二和のほうにも宅地造成中ですね。人数の推移というのがどういうデータを基にわからないんですけども、今後、周りが周辺に宅地造成されて、そういうところに若い世代の人たちが来たときのことも入れての推計なんですか。

【教育総務課長】

住民票がある人を一つ一つ取っていくのが基本なんですけども、地区によっては転出されるような地区もあれば、どんどん宅地開発されてる地区もあるので、そういったものを踏まえています。宅地を造るときには申請してきますので、そういったデータも取りながら、どのぐらい増えてくるのかということは、過去のデータからも平均とったりして、考えては作っています。特に大きい開発があったときはそれだけを足しこんだりして作っています。

【出席者】

この数は変動があるってことですよね。現時点での推移が紙に出ているだけ。

【教育総務課長】

ただ、JR 沿線とかみたいに大規模マンションで何百世帯っていうのはないと
思っています。あと、UR さんのほうに確認してはいるんですけど、今のところ
は建替えの計画っていうのもないということは聞いています。

【出席者】

少子化で小学校も中学校もどんどん人数が減ってくるっていうこの時代なん
ですけど、私たちの地区はどんどん、今おっしゃったように人口が増えてるん
ですね。人口というよりはたくさん家が建っています。金杉にも 71 世帯とか、ど
んどん建ってますよね。新しい方が住むと思うんですよ。そうすると、小学校は
ここへ入れ、中学校も金杉台中学校に入りなさいってというような方法にすれば、
どんどんと中学校にも入ってくださる方がいっぱいいくと思うんです。小学校
のほうも聞いてみると、4 人子供がいるとか、5 人子供がいるとかってあって、
結構人数が増えているようなんです。

だから、金杉台中学校はそのまま残していただいて、今度は御滝中学校のほう
がいっぱいになったらどうするんですか。見ると、あれ以上広げるような余地は
ないですよ。

今おっしゃっていたように、部活をやるとか何とかいって、なかなかみんなと
遊べないとか狭いとか、金杉台中学校だったら余裕があるし、皆さん仲良くでき
ると思うし、私も子供が二人金杉台中学校でお世話になったんですけど、本当に
いい雰囲気ですね、卒業させていただいているので、なくすってというのはやはりね、
御滝中学校のほうも満杯になるということがこれで見えてわかりますので、なる
だけ部活動も金杉台中学校がどんどん部活が行けるような人数を増やすような
方法でいかないと、御滝中ばかり行っちゃうというのはあれかなと。

金杉台中学校を残したいと思っています。みなさん同意見だかよくわから
ないんですけど。

学区でもって、11 ページの水色の部分は全部金杉台中学校に入るってこと
ですか。

【教育総務課長】

(オレンジ色の部分が) そうです。そう仮定しています。御滝中には行けなく
て全員が金杉台中学校に。

【出席者】

それがいいと思います。

【教育総務課長】

それをやったとしても2学級にしかならないし、数年後には1学級に戻ってしまうんです。主に人が増えてる地域というのが、だいたい、二和とか三咲とかかなり北のほうじゃないかと思うんです。宅地がぼんぼん、戸建てが建っているのが。これ以上、御滝中学校まで取り込むぐらいの学区で、変則的です。御滝中のすぐ隣ぐらいまでの人に強制的に金杉台中に行けっていうのであれば、ある程度人を確保できるんですけども、そういうところで対象になった方々はどうなんでしょうね。なんで私たちが金杉台行かなきゃいけないのとなってくるんじゃないかと思うんですけども。

【出席者】

だから、金杉台中学校をもう少しどんどん入れるような方向で、どんどん部活動も作って、皆さんがそっちのほうに行きたいっていうふうにしていけばいいかと思っているんですけども。

【教育総務課長】

学区の変更案もこれ一つしか出してなくて、〔略〕もお話があったところではあるんですけども、水色の部分をもっともっと（オレンジ色に）拡大するとして、強制的に金杉台中に行きなさい、本当に御滝中の目の前ぐらいの人まで金杉台中に行きなさいってすれば、3学級ぐらいにはなるかもしれないんですけども、どうなのかなって。

地区全体からすると一つでいいんじゃないかなとはちょっと思っています。いろんな意見がある方はどうぞ。

【出席者】

父兄の方たちはなくなっているんですか。

【出席者】

なくなるか、なくなるかわからないんですけど、以前も聞いたんですけど、この会が何を目的にやっているかわからないっていうのがあったんですけど。今日すごく違和感を感じたのは、最初から統廃合ありきで進んでいるんじゃないかなって思うっていうのをすごく感じて。見ていると、そっちの言い分は、人数が減るから、デメリットが多くなりますね、子供たちがかわいそうですね、っていうようなもの。なくさないでほしいとか、統廃合したいっていう意見とは別にそういう違和感を感じるというか。とは思いますね。

【教育総務課長】

これまでに2回ぐらいお話しして、どういうふうにしたいのっていうか、考えがあるんですかっていう話があったと思うんです。説明したとおり、皆さんの意見を聞きながら、教育委員さんの意見を聞きながら、決めつけたわけじゃないんですけども、このような形がいいんじゃないかということで、皆さんの意見を聞きながらやりたいと。

【出席者】

もし、本当になくさないで、存続するっていったって人数を増やしたいというなら、それはそれなりのやり方があると思うんですよ。だから、部活をこの人数で増やすってというのはなかなか難しいことだと思って、行く子供たちも部活を期待して御滝中、でもそうじゃない子は金杉台中に行っているんですけど、何で金杉台中を選んだかっていったら、そこに書いてあるようなメリット、少人数のメリットがあるから選んでると思うんですね。金杉台中の学区から御滝中に流れちゃう人もいると思うけど、反対に御滝中の学区から金杉台中に来る子はそのメリットを感じてきてるわけであって、学区編制でもっと大きくなったら、赤もオレンジもなくしちゃって、全部水色にしちゃえば金杉台中の選択肢も増えて、小規模で。変じゃないですか。金杉台中学区飛び出て大穴とかも水色になっているのは。

【教育総務課長】

最初は紫が純粋な金杉台中学区なんですけども、人数が減ってきたので、御滝中なんだけど金杉台中を選んでもいいよというのをどんどん拡大してきた経緯があるんですね。

【出席者】

そうしたら全部水色でもいいような気がするんですが、まあ、それはいいとして、このまま少人数でいたければ、教育に力を。

例えば、金杉台中でよかったなと思うのは、先生の方で英検が必ず受けられる。それってすごい大きなことで、本当にありがたいと思っています。外で個人的に受けると負担が大きくてまあいいか、となるところが学校で受けられる。あと、漢検もあったらいいなとか。小さいからこそ先生の負担も大きいかもしれないんですけど、そこで、そういうことをメリットにすると、こういうことができるんだよと。あとは、今中学校だけで高校に行ける子とかいるかもしれないけど、大体塾に行ってる。だけど、本来そうじゃないじゃないですか。中学校の勉強をちゃんとしたら高校に行けるような学力をつけて高校に行くべきなのに、今、それがなくなって学校の勉強だけじゃ高校に行けないから塾に行っている。すご

く複雑な思いがしますね。そこにはお金がかかるし。本当はみんながみんな等しく教育を受けなきゃいけないのに、そういう矛盾が生まれている。お金がある子は学力が高くなるっていうのはすごくおかしな話で、だったら少人数のところでは塾に頼らない学校をどうやって作ったらいいか。そういう前進的な教育をできるのは小規模校かもしれないと思って、そういうところを進めたりとかするってできるのは小規模校じゃないかなって思うんですね。そう思うと、金杉台中を活かせる道があると思うし。

推移っていうのもよくわかんなくて、平成31年度10クラスじゃないですか。だったら、そうなるなかで金杉台中に流れてくる子もいるかもしれないし、推移っていうのはアンバランスだなんてすごく感じていて、平成34年度まで10、9、9、10ですけど、そこまできても金杉台中の人数が増えなければそこまできなくて、多くなっても人数が増えなければ難しいっていう感じはするんですけど。

【教育総務課長】

金杉台中に最大で流れたとしているのが12ページの数字なんですね。オレンジの、そこまでの範囲で全員が金杉台中に流れたとしてそのぐらいなので、それ以上に増やすとなると、もっともって御滝中のほうまで。

【出席者】

だから私は、反対に、強制的な学区を増やすんじゃなくて自由学区を増やして、あなたも金杉台中を選べますよってしてあげたほうがいいんじゃないかなと。

【教育総務課長】

青いところが全部そういう地区なんですけど、それを白い地区のほうまで増やしたらどうかということですか。

【出席者】

そうですね。今オレンジになっているところの金杉2丁目なんていうのは御滝中学区じゃないですか。だけど、反対にこれを二和地区まで伸ばしても距離的にはほとんど変わらないじゃないですか。そう考えれば別に水色のところを増やしてもありじゃないかなあと。強制を御滝中まで伸ばすんじゃなくて、金杉台中学区でも御滝中に行きたいっていう子の意見も尊重してあげたいと思うんです。やりたい事とか目標がちゃんとあるんだから。行ける学区であればいいんじゃないと。私の意見です。

【出席者】

結局、11 ページ 12 ページのデータは金杉台中の延命なんですよね。赤線の部分、昔の御滝中の学区を全部、御滝中と金杉台中をどちらでも選べますよってエリアを変えちゃった場合、御滝中に行く子が金杉台中に来る可能性はあるんですよ。だけど、この表を見ると、平成 30 年度に御滝中が約 270 名、8 クラス 7 クラス 7 クラスありますよ。もし、統合した場合、金杉台中から 1 学級増えるから 9 クラス 7 クラス 8 クラスになりますよね。1 クラスぐらいしか増えないんですよ、御滝中は。この赤線の地区をフリーにしちゃって、どちらでも選べますよってした場合、仮に 3 割くらい御滝中に行く子が金杉台中に移ったとしてもせいぜい 2 クラスか 3 クラスになるかならないか。御滝中が減ると御滝中が少子（小規模）の学校になっちゃう可能性もあるんですよ。高根中もありますよね。高根中は関係ない？

【教育総務課長】

高根中はもっと南のほうです。

【出席者】

御滝中へ行きたい子が部活をやるという条件で越境していると。実際に入ってみると、〔略〕期待したものと違って玉拾いばかりさせられて嫌だと。そういうケースは結局、統合して一つになっちゃえば解消しますよね。そんな条件で入ったんだけど、一つしかない中学校で自分で選んだ部活に入って、私がそうだったんだけど、入った高校で三日間素振りばかりやらされてテニス部やめたんだけど、嫌だったらやめればいいんだからそういうストレスはなくなりますよね、統合してしまえば。延命をしても、いずれこの問題でてきますよね。はっきりいえば、心情的には中学校になくなってほしくないんですよ。ただ、客観的に考えたらやむを得ない時期に来ているのは前からわかってんの。それをどうするかと思うんですよ。自分が小学校中学校時代を考えると、団塊の世代だからものすごくクラスが多かった。15 クラスあってそれでも足りなくて、講堂をベニヤで仕切って教室造ってて、小学校 2 年生のときに新しく小学校ができて半分移って、それでも 13 クラスあったんですよ。しかも一クラス 60 人。そういう学校を経験しているんで、今の 20 人とかすごく贅沢な学校生活を子供たちは送っている。やっぱり学級数が多いほうがもまれますよ。友達もたくさんできるしね。私はなくなってほしくないけど、子供たちの立場に立ったら、親は小学校こっちで中学校少人数ですごく面倒も（見てもらえる）。確かにそうだけど、はっきり結論はいえないけど、私は学級数が多いほうが子供にとってはいいんじゃないかなと思います。もう統合ありきで話が来ているんで、私が一番関心が

あるのは、後の中学校をどうするのか。廃虚にしちゃうのか。それは困るんですよ。で、これは絵に描いた餅のような理想論ですけど、ここの小学校に中学校をそっくりそのまま移してこの学校で小学校中学校一緒にやったらどうですか。それはできないですか。

【教育総務課長】

施設が足りるのかどうかもありますが、少人数で9年間そのままは変わらないです。

【出席者】

今は小学校・中学校別々に連携してるでしょ。ただ、中学校が部活をやるテニスコートなんかはないから向こうまで行かなきゃならないけど。臨機応変に地域のために考えてもらいたいと思います。

【教育総務課長】

策として小中一貫というのは、基本方針にはないのでここには書いてないんですけど、そういうときのメリット・デメリットとかも今、意見があったのでやったほうがいいのかなんて思いますけど、小学校中学校一緒になっても、部活とか人数とかの課題は解決しないんですけども、そういうところがメリット・デメリットとか明らかにしていけばいいのかなと。

【出席者】

さっき〔略〕がおっしゃったように、ここなら9年間一緒にできるし、モデル校じゃないんだけどね。

【出席者】

義務教育が何のためにあるかってことなんですよね。さっき〔略〕もおっしゃいましたけど、本来だったら塾に頼らなくても十分学力付けて自分の目的つけて次に進むというのを、子供たちの自分の意思決定です。15歳ならできますから。それが義務教育たるものではないかと思うんです。なので、私は9年教育であったり6・3制を4・5制に変えたりって、文科省の問題だ、ここでいってもしょろがないっていわれちゃうかもしれないけれども、義務教育の意味っていうのを再考していただきたいかなって思いますよね、教育委員会の方々にも。

お話を聞いていても、以前の中学校の評議員会でも、統廃合ありきっていう雰囲気伝わってきたんです。だから私は反対ですよ、で返したんですよね。デー

タもデメリットが強く謳われていて、全部読んでいませんけど、雰囲気として統廃合するメリットっていうもののほうがたくさんあるよというのがなんか伝わってくるんです。だから私は1回目の評議員会の際に違和感を凄く覚えたんですよね。小規模校の良さを改めて語らせていただきますと、本当に教育というのは充実しています。先生が生徒のことを全員知っていますし、生徒も先生のことを全員知っています。人間のことも、食べ物の好き嫌いまでわかる。そういうなかでやりたいことは何か、たっぷり教育を受けさせてもらって、だから塾には行きませんでしたね。

【出席者】

この場に私がどうしてメンバーに入ったのか、大変だなと思います。〔略〕が発言されました義務教育をどうするかという議論。この場でどうするかという、その辺にはどうしても線を引かなきゃいけないと思います。少なくとも法改正しようぜという話にはならないんじゃないかと思います。

しかし、〔略〕の視点というのはすごく大事ですので、そういう視点を持ちながら考えていかなきゃならないとは思っています。

なお、この場の議論が発散しないためにも、教育委員会として、学校管理の観点から、ここは譲れないところがあるという事項があれば早めにお示しいただくべきだと思います。例えば、学校経営っていうんですか、予算がまずあるわけだと思わしてね。この辺に譲れない一線があると思います。

金杉台中学校の今後については、すごくいっぱい検討要素があります。金杉台小評議員の話し合い（1月23日開催）の内容から申し上げますと、量的な問題もありますし質的な問題もあります。例えば、生徒数の推計など量的な問題については、金杉台中学校のデータだけでは説明しきれないですね。周辺の中学校、御滝中学校だけではなく、旭中学校のデータや学区の変更を含めて説明しないと理解してもらえないのではないのでしょうか。

それから、質的な問題については、先ほどいわれていました多様性を維持しなければなりませんし、多様な考えがあることを踏まえて協調性を持ちながら、しっかり競争しなければならない。これは自由社会の基本ですので、その辺は子供たちに体験させなきゃいかんですし、この基本的なベースっていうのは反対することはないと思っています。規模によるメリット・デメリットの説明がなされておりますが、この基本的な観点に照らして説明する必要があると思います。

また、船橋市の基本方針や基本計画は、これらの観点から作られていると思うんですね。だから、その基本に照らして質的に子供たちをどうしたらいいのかを話し合う必要があると思います。

金杉台中学校で今も、小規模でいいんじゃないかっていう意見がありますよ

ね。この人たちの意見を踏まえてどういうふうに判断するかってなかなか難しいんですけども、みんなに説明するっていいですか、教育委員会の立場で私たちが受けて、しっかり考えて、今度、みんなと話をしなきゃいけない。

〔略〕これからどういうふうに合意形成をしていかなきゃいかんかなあと思っているんですけども、その辺の線引きをするということですよ。広い視点での量的な問題と、大規模校小規模校のメリット・デメリットでメリットのほうをしっかりと理解していくということが必要なんじゃないかなと思ひまして、そういう観点で資料を提供していただくと助かるなと思ひます。それから、このチームはこれからどこまで議論しなきゃいけないのか。地域の合意形成まで頼むよといわれるのか。PTA と評議員の意見だけを聞く参考までのものですよということなのか。位置付けというのがよくわからないんですけども、そこらへんも説明をしていただきたいなと思ひます。まとまりませんけれども。

【教育総務課長】

地域とかそれぞれの団体さんの完全な合意形成とかまでいけるのかわからないんですけど、全員とはなかなかできないので代表者の方ということでお願いして、各所属のほうに持ち帰ってもらって議論していただいて、意見を次回とかで聞いてみてどうしようかって考えていきたいかなって思っているんですけども、この場で方針を決定するとかっていうのではないんじゃないかなとは思ひんですけども、ここで意見をいただきながら、こちらもちよっとう行きながらやっていければと思ひているんですけども。

【出席者】

一番問題は、今度、平成30年度に中学一年生になる親御さんが一番関心があるんじゃないんですか。僕らなんか年寄りだから実感がない。子供を持っている親御さんの気持ち。PTAの方はあれだろうけど。

【出席者】

もう一点、この前も申し上げたんですけど、学校教育施設だけでなく、社会的な価値のある施設なんですね。ですので、防災とかコミュニケーションの場としても使われている。そういう社会的価値もある施設なんですね。子供たちだけの施設ではなくて、特に、金杉地区は公的施設がすごく少ない地区です。それと下総台地の上にあるんですけども、台地はずっと平坦じゃないんですね。特にこの場合は、海老川の上流部で支流が四つに分かれていて高根公民館に行くには、ここから谷越えで、一つ越えてもう一つ谷を越えて行かねばならないんですね。そういう特殊な地形を持っています。大きさをゾーニングされたのと同じよ

うに考えてもらっては困るにもかかわらず、公的な施設が少ないですので、金杉台中学校はこの地区の財産であるわけですし、そういう観点からも検討しなきゃいけないですし、対応していただきたい。〔略〕がいわれたように、後どうするの、放置されるということでは困る。それは社会的な価値ある施設ですので、そういう観点も含めて議論して、この地域のために、子供たちのためにということと地域のために施設をどうするかということも考えていただきたいと思いません。

【教育総務課長】

今日、新しくお出しさせていただいたんですけど、これが市全体の公共施設の管理計画。先ほどさわりだけお話ししたんですけど、人口動態も変わっているし、市全体としても今後どういう施設が必要で、作るばかりじゃあれだから、必要なやつとかきゅっと複合化できないかとか、そういうのを総合的に管理するのが市長部局のほうであるんですね。それも並行してはやっていくので、ここもここだけでやるんじゃないで、市全体で話すことにはなります。ただですね、あまりそっちが先行するよりも、やっぱり教育的な観点からお話ししていきたいと思って、今日は教育委員会だけです。当然、連携はもちろんしていますけれども、そちらの観点からも市全体でどう配置していくかとかも大事になってきますんで。

【出席者】

将来のビジョンを共有しなきゃいけないという意味において、全ての皆さんが納得することは難しい。しかし、納得していただけるために前向きな、この地域がよくなる前向きなビジョンを共有しないとこの問題は解決できないと思いますね。学校だけで解決しようと思われたら困ります。その辺の視点も入れて、教育委員会にお願いすべきことではないかもしれませんが。

【教育総務課長】

私どものほうから、市の所管と連携していますので、そちらのほうも皆様とどうやって話していこうかというのは伝えて考えていきますので。

【出席者】

地元がそういう意向があるんだよということは関係の所管課に伝えていただきたいと思えますし、私どもの動きはまた別の動き方をしなきゃいけないこともあるので、教育委員会だけをお願いすることでもないと思えますね。

【教育総務課長】

そういった市の財産の所管課と一緒にやるのか、別々にやるほうがいいのか考えてはいるところですけど。

【出席者】

教頭の前の前の教頭、今、教育委員会にいる先生が柔道をやられていて柔道部を作ったんですよ。ここの小学校の子供で柔道をやりたいんだけど柔道部がない。で、中学校の柔道部と一緒にやってたんですよ。だから、そういう連携もずっとあるんだから、私はここの学校で小学校と中学校の校長先生が二人いてもいいと思うんですよ。

【出席者】

〔略〕地域は金杉台中学校に通う地域です。なんですが、〔略〕御滝中学校のほうへ進学する希望を出させていただきました。同じような金杉台中学校の地域で御滝中へ進学の希望を出したお子さんは、ほかにも何人かいらっしゃいます。理由や考え方とかそれぞれですし、選べる地域から金杉台中学校を選んだよというお子さんの話も何人か伺いましたけれども、本当に人それぞれなので一概にはいえないのですが、市の基本方針を基に考えていくと、金杉台中学校はそのルールというか方針からは外れてしまうので統合をしていく方向になるっていうその考え方はすごく理解はできるんです。

ただ、今この現状のなかであえて選べる学区から金杉台中を選んだお子さんと、金杉台中しか行けない学区の中から金杉台中に行きたいと思って選んだお子さんというのは、なぜ選んだのかというと、小規模だからこその良さを選んでるんですよ。で、今日予定が合えば来たかったとおっしゃってた方が一人いらっしゃるんですけど、その方も御滝中と一緒に大規模校になると、ちょっとうちは金杉台中学校に行かせたいのよねっておっしゃってたお母さんがいらっしゃるんです。そういうふうに金杉台中学校を選ぶお子さんというのは、大人数の中というよりも、少人数の中で学んでいきたいということを重視して選ばれているお子さんが多いと思うので、そこを考えるとこの資料とおりのルールに則った規模の学校にしていきましょうという方向で進んでいくと、今の金杉台中の良さというのがなくなってしまうと思うんです。

で、実際部活を増やすのは、子供の人数を増やさなければいけないですし、今の金杉台中学校の先生方の人数で部活を増やしてくださいというのはものすごく先生方の負担だと思うんです。全く教育の現場を知らない私でさえも小規模校の先生方というのは子供の教育だけではなくて、いろんな係を背負わされていたりとか、そこに部活もあって負担がすごく大きいので、ここで更に部活を増

やましようというのは子供の人数も集まらないし先生の負担も大きいしというので、そこはどうしても無理があると思います。そこで、部活理由で御滝中に行ってしまう子を防ぐために金杉台中の部活を増やましようといえれば先生の負担も大きいし、子供の人数を増やすかといっても、そうすると金杉台中の今の良さというのがなくなって、御滝中と同じような学校になっていく。まあ平均的といえれば平均なのかもしれないのですけれど、そこでメリット・デメリットで挙げられていたメリットの部分がなくなってしまうので、そこはどちらを優先するのかなというところがすごく重要になるのかなと思います。

そのなかで、もしもこういった小規模校の良さとかを出していくのであれば、先ほどからみなさんが一貫教育とっていましたが、身近なところでは市川市の塩浜でも義務教育学校でしたっけ、詳しいことは私分らないんですけども、そういったものがあつたりするので、今のきめ細かさといったそういった部分を活かし続けていくのであれば、本当に長い計画とかより深い計画が必要なかもしれないですけども、中途半端で付け焼刃な学校をこうして増やしていきましようというのではなく、本当に今の金杉台中学校の良さを引き継いでいけるような教育の内容とかというのを検討していただいて、残すのであれば残す方向を検討していただけたらいいのかなというのがまず1点思うところでは。

市議会だよりか何かで文教委員会で北海道に視察に行かれて、いろんな学校施設を4つ統合して作られた施設を見学に行かれたという記事を拝見しましたけれど、そういった情報とかもあると思うので、いろいろな場所の情報とかも考えながら進めていっていただけたらなと思いました。

あとは、部活理由で御滝中にいく子がいるというなかで、〔略〕がおっしゃっていたように親の思いで行った子もいれば、子供の思いで行った子もいて、〔略〕御滝中に行くのも、すごく乱暴ないい方なんですけれども、現実をいってしまうと、金杉台中学校しか選べない学区の子は御滝中に行きたいと思うと、部活を理由にするしかないんです。これは実際子供が本当に悩んで悩んでどうしようって金杉台中のいいところ、メリット・デメリット、御滝中のメリット・デメリット、本当に親子で話し合いながら、悩んで悩んで御滝中に行くって決めたんですけども、実際にはどっちに行けば正解かなんて行ってみなければわからないことです。小規模校がいいと思って行ったけど、それが逆に負担がある場合も、大規模校がいいと思って行ったけどそれが負担になるとかそれぞれあるので、分からないので何ともいえないのですが。

〔略〕同じ学校の中で、本当にささいな理由で選べる子、制服がかわいい、お友達がこっちにいる、家が近いそれで選べる子もいれば、そうではなく、ただ、自分は仲のいい友達が御滝中に行くからそっちに行きたいとかいろいろな理由

のあるなかに、でも部活じゃなかったら行けない、だから部活を理由にしてそっちに行くという子がいるのもやっぱり現実なんです。でも、そのなかで3年間部活を頑張りますという文を書いて、御滝中の校長先生と面談して3年間頑張りますと行って行くんです。

それで、実際そこに行って、本当はそんなに好きではない部活に入ってレギュラーにもなれずに苦しんでとか、人間関係でうまくいかなくてとか、もちろん部活がやりたいと思って、本当にやりたいと思って行っても人間関係で、そのなかで仮にいじめにあって辞めたい、でも宣言しちゃったから辞められないとか、そういうなかで行かなければならない子供の負担というのもすごく大きいんですね。なので、現状でそもそも選べない学区と選べる学区があるということ自体が、私は反対なんです。

人数を調整するために選べる学区があったとか、金杉台中学校の人数を確保するために選べない学区があるとか、その理屈は分かるんですけども、やはり子供のことを第一に考えると、選べる子はいいと思うんです。好きなほうを、自分がやりたいほうを選べるので。〔略〕部活が全てじゃないですけど、でもやっぱり我が身を振り返ってみても部活がすごく大切だったりして。部活からすごく、一生の友達ができたり、意外に自分の進路が部活に関わる仕事になったりとか、そういった部分とか何が正解かは分からないんですけど、そういう部分もあるので。〔略〕自分もそういった経緯があるので、選びましたけれども、だからすごく選べるっていうところをなくしていただきたいかなって。ほかのお子さんの話を聞いても、実は多分そんなに部活ではないよなっていうお子さんもいらっしゃるし、そうするしかないからそうしたって。そういう子がいらっしゃるの、選べないなかで、本当にその部活がやりたいから学区を変更したいって子は別に面接して行けばいいと思うんです。そういうシステムを変えていただけたらなと思います。

まともらないですけど、金杉台中をなくさなくていいならなくさないほうが良いと思います。今の良さで残していただきたいなと思うので、今の良さを残しながら残せる方法を検討していただきたいなと思います。でないとやっぱり本当に、全部選べますってなって、今の金杉台中の良さがなくなって学校の規模も同じくらいです、こっちのほうがちょっと少ないくらいです、部活もそこそこあります、選べますよってなったら、選ぶメリットっていうか、別にどっちでもってなってしまうと思うのです。いろいろな法律とかシステムのこととかあるかもしれないんですけど、そこを広くやるのであれば、小中連携教育、すごく本気でやってきていただきましたけど、そのなかでせつかくいい連携だったのが、いろんな日程の都合とか先生方の手間とか考えてなくなってしまった部分というの、教育委員会から指定で連携教育されていたときは中学校の生徒さんが学

校に来てくれて、小学校の子供たちと一緒に授業を受けることがあったりとか、本当にすごく、それを見て子供たちが中学校に行きたい年頃の低学年とか本当に中学生にあこがれてましたし、だからこそ中学校に上がることが不安じゃなく成長していついてくれていると思うのです。せっかく連携してきたのであれば、そこは御滝中にはない部分なので、そういった部分をより良い形で活かしながら進めていついていただきたいなとすごく思います。

【出席者】

今のお話は学区の自由度の問題ですね。選択学区を広げていくことはできるのかという。今の制度の中で。

【学務課長】

よろしいですか。7ページを見ていただきたいと思います。今説明がありましたとおり、紫が金杉台中学校の基本学区、水色のところが選択できる学区。これだけの広さを選択できる学区にしているのもやっぱり市内でも本当はないんですね。これはかなり広い選択学区です。皆様からいただいている意見を事務的につぶそうという意図ではなく、現状だけお伝えをしたいと思うのですけれども、選択を広げることで金杉台中学校を選択してくれる子供、特に金杉台小学校から選択してくれる子を増やそうということで、連携教育とか、柔道部を作ったりとか、特徴を持たせようということで本当にずっと金杉台中学校は小中の連携を深めようということでやってきていたところなんです。これだけの広さに広げて、そこからの選択を広げてほしいということでもかなりやってきてはいるけれども、現状としてやっぱり今の数になってしまっているということがまず一つ。努力が足りないといわれればそれまでなのですが。いま評価いただいたようにかなり小学校・中学校の連携や部活といろいろとチャレンジしてきたのですが、現状の数になってきてしまっていることが現実としてあります。

また、ここの紫のところが、青一色になりましたら…要するに紫の中の方々が選択できない人たちですよ。これをもし選択できるようにしたとすると、新入生がゼロになるということも考えられるという状況も発生してしまう。どこの中学校も固定の基本学区があって、そこに若干の選択学区があるというのが通常で、大きく人口に流動があると、学校の施設の問題、教員の数の問題、大きな流動に対応できないところがありますので、選択学区というのは極力狭い学区で行こうというふうに周りにはなっているんですけれども、金杉台中については選択してくれる人を増やそうということで、これだけの規模の選択地区に広げてきたというのが現状です。

【出席者】

限界があるということですか。選択学区を市全体に広げる、そういう考え方はできるんですか。そうすると結構集まって、生徒数が確保できるのではないかと思います。一貫教育をやると魅力があると思うし、この場合は、船橋の中でも自然性がすごく優れている土地として、谷地の自然がある、そういうのも学校の守備範囲に入れておられれば、すごく魅力的な学校になるということですね。これは公立学校の経営じゃないかもしれないですけども、そういう学校があってもいいのではないのかなと思います。その辺はどういうふうにお考えになるのか。

それと、一貫教育、連携教育、どういうふうに評価されているのかというのが、まだ聞けない。以前もそれを教えてね、どういうふうに評価しているんですかというのが気になるんですけども。その辺の問題があります。小規模化、標準規模化というところ以外の魅力を持った教育、子供たちのためにというのであれば、そういう制度があってしかるべきですよ。その辺はどういうふうになっていますか。

【学務課長】

連携教育。御滝中、金杉台小、金杉台中という位置関係と、金杉台小学校が御滝中の学区、金杉台中の学区、の両方に、いわゆる1小2中のような形になっているという特別な状況がありますので、例えば小室中と小室小で学区が同じというようなところでありますと、こちらは一貫教育ということで、教育課程を合わせていくことができる。一貫校ではないのですが、小学校から全部上がってくるという前提があるので、一貫教育という方法はあるのですが、今回は、必ずしも全員が金杉台中に来るという学区になっていない、という学区の特殊性がありますので、ちょっと一貫教育というのは少し難しい。でもやはり連携することで中学生にとっても小学生にとってもお互いの相乗効果で学力・体力を磨けていけるようにしていこうという方向で、一貫ではないけれど連携を強めるということでやってきています。現在もその状況は続けているというふうに捉えています。評価ということですか。

【出席者】

そうですね。私個人的には一貫教育をずっと受けてきたんです。それがすごく良かったなと思うんです。いわゆる小学校以上の歳の人とコミュニケーションが取れる、あるということがすごく大事ですね。

【学務課長】

これは十分検討されたことではないし、小中一貫教育となると教育委員会全

体の話になりますので、私個人でなかなか申し上げづらいのですが、どうしても一貫教育となると、小学校の学区と中学校の学区をきちっと合わせるということが前提となる。それが例えば他市でやっているような全市から選択できます、その対象の子は、入ったら全部この中学校に入ってくださいといったような一貫校という形も、方法としてはあると思いますが、そうすると全く新しい学校を新たに作るというような発想になってしまうのかなと。

【出席者】

以前はそういうことではなくて、金杉台中が試験的にあうかどうか。余裕があるかどうか。

【学務課長】

この状況を改善しないと、一貫でというような…

【出席者】

一貫教育の効果よりも、今までどおりの学区制でやったほうが良いというのが基本にありますよということですか。選択学区は小さくしたほうが、今の生徒たちにはいいということですか。

【学務課長】

一貫教育というのは、小学校にいる子供たちが全部みんなちゃんとこちらに入ってくることを前提で…ある程度保障できるということで進められる基本になるかなということですね。その部分でこの学区の状況であると、そのベースを作ることが難しい。まずそれが今、議論になっているのかと思います。

【教育総務課長】

本市のほうでも小中一貫校という議論はなされてはいないです。そういうふうな議論はないんですけれども、今、何名かの方から話がありました。義務教育学校というんですけれども完全な9年制で、例えば6・3ではなくて、4・3・2にするとか、そういうのもあれば、同じ施設で小学校、中学校が並んでいるのもあるんです。今、いくつかどうなんだという話が出ていますので、それも考えていかないと多分、皆さんも納得しないと思います。そこを今すぐはちょっといえないので、次回までに整理できるかどうか…大きな問題なので分からないんですが、そこを入れていかないといけないのではないかと思います。

【出席者】

水色のところを広げるというお話が出てきたんですけれども、選べないところの立場からすると、水色のところではなくて、選べないところを増やしてほしいと思うんです。本当に。同じ学校内で選べる人と選べない人がいるからこそ、選べない人は本当すごく葛藤して。選べない人でないと分からないと思うんです。どれだけ子供が悩んで、悩んでいない子もいますけど、みんながどっち行く？どっち行く？と話をしているなかで、その話にも入って行けず、それで部活を理由に御滝中に行けば、入学した後に部活紹介を先輩たちがやっていてほかの子が何部行く？とか体験入部するとか話をしているのに、そこにも入れないんですよ。選択肢がないんですよ。別にそれで選んで行ったんだからしょうがないだろうといわれればそうなんですけど。でも、それを理由にしなければいけない、ほかに理由がもしかしたらあるのかもしれないけれども、それしかないからそれを理由にした子たちもいるんです。選べる、選べないがあるからそういうことになるので、もう金杉台小学校に行っている子はみんな選べない、金杉台中にとか。しっかりと区切っていただく。

私も子供の数が一番多かった世代なので、どんどん学校が増えていった世代なので、中学校を選べるなんていうこと自体、常識としてなかった。ここからこの子はあっちの学校、ここからここはこっちの学校という、それが本来当たり前じゃないですか。

そういう形できっちり学区を割り振っていただければ何年か先をずっと見ると1クラスかもしれないけれど、金杉台中は今の状態と同じくらいの状態で推移するのではないのでしょうか。一時は2クラスになっていずれは1クラスになってしまうのかもしれませんが、でもそこは少人数だからこそ、今の金杉台中学校の良さがある訳ですから。学区をしっかりと固定していただいて。多くても2クラス、最終的には1クラスになってしまうかもしれないよ、でもそれが何か市の中で大きな問題があるというのであれば別ですけども、そうではなくて1クラスでもその良さがあることでいいというのであれば、学区を選べるということがないよう、しっかりと割り振っていただいて。

もし、連携とかではなくてしっかりとした一本柱のある一貫教育というものを作り上げていただくというのであれば、部活理由で中学を選ぶように変更できるように、一貫教育を理由に金杉台中学校に行きたいと希望する子供たちがいないですかね。筋の通った、長いビジョンで考えた教育をされているのであれば。

義務教育学校の事を調べさせていただいたときに、基本的には小・中、ずっとそこで一緒にとというのが原則なんだけど、例えば中学校からそっちに行きたいという場合は申請を出してそっちのほうに異動できるというようなシステムもあるというような内容を拝見したので。もしそういう状況で、システムのほかか

らも金杉台中、一貫教育が現実になって途中からでも行けるよというのであれば、金杉台中学校の学区が割り振られているのであれば減ることはないですし。そういうシステムがあれば、そこから増えて、1人2人3人と増えていくのかなと思うんですけれども。

【教育総務課長】

小中一貫は小規模対策とは別で、その教育がいいのかどうかというところで考えていくものだと思うんですけれども。なので、文科省のほうも市の基本方針でも小規模対策で一貫教育というのはないのです。

文科省のほうに入っているかと思うんですけれども、例えば山間部とかになると、統合しちゃうと隣まですごい距離になって、じゃあどういうメリットを活かしていくかということになってくるときに、小規模校のメリットもありますので、そういうところを伸ばしていくし、そこで小中一貫教育というのはやってみようとかになると思うんですけれども、それっていうのはやはり統合とか…基本は統合のほうがいいとは気持ちとしてあるんですけれども、どうしても何らかの理由でできない場合はそうやってデメリットを消してメリットを大きくしようという、そういう方策なんじゃないかと思います。

【出席者】

〔略〕の意見は大変よろしい、いい意見なのかなと思います。これは教育の現場をどうしていくかという話なんですよね。建物うんぬんなどではなく。教育の現場をどうしていくか。またそこまで広げるなといわれちゃうかもしれないですけど。文科省からの抜粋の文面を見ている、言い切っていないんですよ、全部。重要です、標準となっています、望ましいです、言い切っている文章が一つもないです。今までも教育委員会でも一貫校というものをテーブルに乗ったことがない。だから難しい。という話ですよね。でも転換期に来ているのだと思います。ですから是非教育委員会のテーブルに今出た意見というものをのつけて、もう一度白紙に戻していいという位の気持ちで話し合っていたきたい。希望です。

【教育総務課長】

(金杉台中学校に関しては、) 具体的には教育委員からも、これは継続してやっていきたいといわれていますので、(考える会の意見を) ちゃんと報告して、次の会議で議論していくようになります。

【出席者】

11 ページのところで、南北の距離が約4キロくらいだから、どっちの中学校に行っても、そんなに子供たち、通学に困る様な距離ではないんですよね。で、ブルーのところの右が、赤枠の御滝中の学区の色分けのないところが全部御滝中に行くんですよね。そこまで選択学区を全部広げちゃって。金杉町の下から。この赤枠の中は全部選択できますよ、どこ行ってもいいですよとしたらどうなんでしょう。そういう予測はしていないでしょうか。

【教育総務課長】

これは、もしかしたら金杉台がゼロになっちゃうかもしれない。

【出席者】

ゼロになっちゃうかもしれないし、中には三咲の方で金杉台中のうわさを聞いて、うちの子どもを金杉台中まで行かせようという人もいるかもしれないし、分からない。

【教育総務課長】

今までこの青いのを作ってきちゃった。例えば紫のところはかつてすごく子供たちがいて…

【出席者】

例えば金杉台団地の紫の枠は、もうほとんど供給源ではないんですよ。

【教育総務課長】

ちょっと昔のまま、大きすぎているところはあるんですね。本当は見直さなくてはいけなかったんじゃないかなったのではと思います。できればやっぱり選択学区とはしないほうが良くて、特に小学校は町会を分断しちゃうような。

【出席者】

いま現実的に選択できるところとできないところがあるんだから、それ自体が不公平ですよね。だからやっぱりそれをどうするか。選択権なくすと、みんな御滝中に行っちゃう。

【教育総務課長】

小規模校がいいという人も、もちろんいるし。

【出席者】

だから赤柾の中で東の地区、ブルーの東、三咲のほう。選択権を与えたら、中には。金杉台中に来るかもしれない。可能性として。

【教育総務課長】

今、ちょっと思いつきな感じで。もしそうなったときにゼロになったら、やってみてゼロになったらしょうがないねとなるのかもしれないですね。お試してみたいな感じですけど。そういうシミュレーションは取りにくいですが。

【学務課長】

先ほどいわれたように、選択できない人より選択できる人のほうが多いという状況になって、本来の学区はそれが逆なんですね。本当に大変申し訳ないと思っているのですが、これは選択を広げたためにそれが生じてきている。さらにまた選択を広げるということは今の問題を拡大していってしまうことになってしまうと思います。そういうことは懸念されると思います。

【教育総務課長】

みなさん、時間のほうは大丈夫ですか？

【金杉台中学校長】

ではよろしいですか。まだ〔略〕がお話をされていないので、私これから言いたかったのにといわれちゃうと、後でごめんなさいしようと思うんですけども、本当に今日は金杉台中学校のことを考える会ということで、皆様にお集まりいただいて、このような長時間、いろいろな意見、お話をいただいて感謝しております。ちょっと雑な言い方なんですけど、私は金杉台中学校の代表でもありますし、あなたのことを心配しているんだから、ここにみんな集まっているのよと、肝心なあなたが何もいわなくてどうすんのと、他人事にしないでくださいなんという声には絶対したくないので、ちょっとお時間いただきたいと思います。

まず、この場をお借りして、本当に私も昨年度この学校に来まして、2年目になります。日々の生活、子供たちから、保護者から、地域の方からいろんなお話をいただきます。本校の事で褒めていただくこともたくさんあります。でもそれ以上に、今日、こちらに集まりの方々から、本校の良さをこれからも大事にしていこうという強いお話をいただいていることに、とても感謝しますし、このことが学校に戻りましても、おそらくうちの職員にも、いわゆる元気につながりますし、子供たちの前進につながるというふうに感じております。本当に感謝しております。ありがとうございます。

そういうなかで船橋市教育委員会の皆さんも、いわゆる理由があるから、根拠

があるからこういう場をもつに至っているということは、まぎれもない事実ということもありまして、そういったことで考える会ということになっているかと思えます。

で、今回は、私たち中学校側で、いろいろ議論を重ねてきましたけれども、今日、小学校の立場でいろいろな立場の方からお話を伺って、これまでには聞かなかったことができました。何をこの場でお話したかったかという、いわゆるこの場で何かが決まるとか、そういったことではなくて、今日、小学校の皆さんとお話しして、また新しい見方が生まれたと。新しいことが考えられるようになったと。ということは、我々も教育委員会の皆様も同様ではないかと思えます。

今回の話の中で、義務教育学校の話とかも出ましたけれども、これについては、もちろん教育委員会の中で、ということになりますが、でも必ずしもここにいらっしゃる方々が、内容について専門にといいますか、ご担当であるということでは限りません。何をいいたいかというと、みなさんいろんなお話が出た様子かなと思っているの、またこういったことを繰り返しながら、目指したいというのが正直なところですよ。

で、校長として、一番不安なのが、言葉は一度出たら消せません。一度出た言葉はときには一人歩きをしますの、そういったところで失礼なところだと思うのですが、入口のところで貼られていた貼り紙（船橋市立金杉台中学校の今後を考える会）を外していただいたところでもあります。私自身は学校の代表として、4月に迎え入れる…包み隠さず教頭先生、いっちゃうんですけど、来年度の入学予定者数、日々動くというか、現段階で確定した人数がございます。例年並みの人数が入学してくる見通しなんです、ただこれがですね、こういった場があったということで、不安があつて相談があつた場合には受けますけれども、そういったことが勝手に1人歩きしないように、努めてまいりたいと思えます。この場をお借りするんですけども、先ほどお話があつたように、この4月に入学する子たちについては、金杉台中学校の生徒として3年間面倒を見ますということで、保護者会で私、宣言しましたけれども、この目先の子たちについては、金杉台中学校の子として迎え入れていくということで確認させていただいてよろしいでしょうか。不安を招いてはいけないので。お話は聞いているんですけど、そういったことで皆さんからどうなの？といわれてはいけないので。

【教育総務課長】

はい。ありがとうございます。

【金杉台中学校長】

はい。すいません。ではそういったことで、私のためにといってはおかしいん

ですけれども、お力をお借りして、もちろんは学校が頑張らなければいけないことですので、そこを第一に考えながら努めてまいります。今後ともいろいろなお知恵をいただきたいと思います。私が締めるわけではないのですけれども、本当にありがとうございます。

【教育総務課長】

ありがとうございました。校長先生、どうですか。

【金杉台小学校長】

貴重なお時間ありがとうございました。12時半になろうとしています。ありがとうございます。私からは、校長の立場ですけれど、メリット・デメリットという言葉ではなくて、いま現在の小・中の良さということを少しだけお話しさせていただきます。私がここに着任したときに、教育長から金杉台小学校に行きなさいよといわれて、3月28日に私はここに来ました。来て、窓を見て、小中連携教育とありまして、そうか、私は小中連携教育をするためにあてがわれたんだなど。ということは、小学生も中学生もあるんだなと思いました。それから、連携という言葉。それだけではなくて地域もあるんだなと思いました。つまり、この町を愛する、この町を大切に作る、そういう子を育てていくんだなというふうに思いました。で早速始まった運動会。小中の運動会で、小・中学生が一緒になって汗を流す、あの姿は素晴らしいです。私の心の中にこれからず一つと根付いていくと思います。そういう素晴らしさがありますということを、この場でお話ししたいしまして、私はこの先のことをどうこうということを述べられませんが、頑張りたいと思います。

【教育総務課長】

ありがとうございます。〔略〕

【出席者】

うちの子は〔略〕行くって決まっていたし、もうそういうものだと思って金杉台中学校に行きました。金杉台中学校はすごくいい学校です。だから行きたい子はちゃんと行っていると思うんです。だから、できることならば残してほしい。だけれども、お上の予算だのいろいろあるので、どうしてもこのままでは無理というのであれば、それはそれで仕方がないとは思っています。だけれど、いい学校なので、私も卒業生なんですけれども、どうか残す方向で行ってほしいと思います。けれどもお上のいろいろな理由でどうしても無理だといわれるのであれば、やむを得ないのではないかと私は思います。以上です。

【教育総務課長】

ありがとうございました。私は全部メモってはいないので、後でテープを起こしますが、いろいろなこういうことも考えてみてはどうかということが出ましたので、例えば、地図を見てもここの地区だけで点でとらえていますけれども、もうちょっとこういうのはどうかとか、小中一貫の話もありました。あと市の公共施設の関係もあるんですけれども、そういったことを整理して、次回またお集まりいただければと思います。時期としては、もしかしたら年度明けとか、3月中かとは思いますが、皆様も各所属のほうに話しされて、一人だけで抱えるのではなくてとは思っておりますので、そしてまた次回、話し合いを続けさせていただければと思うんですけれども。そのような形でよろしいでしょうか。

それでは本日は長時間ありがとうございました。次回はいつかについては本日決められなかったもので、また校長先生を通じてやらせていただきたいと思っておりますので、ありがとうございました。